

アメリカ・ニューハンプシャー州の事例から学ぶ

知的障害者が自立生活を送るために私たちができること



6月22日(金)～29日(金)の一週間、アメリカ・ニューハンプシャー州(以下: NH州)より、障害者プログラム・調査専門官のカーラ・ウェストンさんが、お嬢さんのキャシーさんと共に日本を訪れました。

●はじめに

カーラさんとぱれっととのつながりは、2005年に開催した勉強会で日本にお招きしたのがきっかけです。以来、お互いに情報を交換したり、日本からのボランティアを受け入れて頂いたりといった関係が続いています。

NH州は、知的に障害のある方たちの入所施設を廃止し、地域コミュニティで暮らしていく為のシステムを提供した最初の州です。今回、来日の機会に、ぜひNH州の福祉の現状についてお話しを伺おうと、6月27日にぱれっとインターナショナル・ジャパンの主催で「国際交流 ぱれっと勉強会」を開催致しました。

また、勉強会の他にも、以前NH州を訪れたボランティアたちの案内で上野動物園や鎌倉に行き、さらには、ぱれっとの家いこつとでのホームパーティでの入居者と交流やおかし屋ぱれっとでのクッキー作り体験、スワンベーカーリー赤坂店の見学等、ぱれっとに関わる方たちと積極的に交流し、充実した一週間を過ごしました。

●NH州の事例から学ぶ

「知的障害者が自立生活を送るために私たちができること」と題した勉強会当日は、ぱれっと関係者に加え、区内外部団体、障害者の親・兄弟や海外(イラン)からのインターン等30名以上の参加者で席が埋まりました。小寺裕子さん

通訳のもと、NH州でのファミリーサポートシステム実現までのプロセスや実現に際しての家族や支援の在り方の説明、ビデオを見ながらの実例紹介等もして頂きました。会場内は、時折笑い声も混じり、カーラさんの明るく楽しいお人柄で、終始和やかな雰囲気でした。質疑応答も活発に行なわれ、あっという間に二時間半が過ぎました。

●勉強会を終えて

その方に合ったサポートを受けながら、色々な関わり合いの中で、その人らしく生活している方の実例を見ながら、私たちにとって、本当の豊かさとは「関係性の豊かさ」なのだ改めて実感しました。日米の制度や仕組みに違いこそあれ、今回の勉強会を通して、新たな可能性や希望を感じ、知的に障害のある方たちが地域で自立的に生活をし、働き、楽しむ為に、それぞれの立場で何ができるかを考えるきっかけになれば幸いです。

NH州は、障害者の兄弟へのサポートシステムについても先駆的な取り組みをしているそう。次の機会にぜひ取り上げてみたいです。障害者、障害者の親・兄弟等本人同士の相互交流や、情報交換等もできたらおもしろそうですね。このように、新たな可能性を感じたカーラさんの勉強会でした。カーラさん、キャシーさん、勉強会の参加者、滞在中にお世話になった方々、ご協力ありがとうございました。

NPO 法人ぱれっと事務局 坂上玲子

今回、勉強会に参加された皆様より ご感想をいただきました！

【ぱれっと親の会 安川みささん】：カーラさんの講演は障害者の自立支援に役立つことがたくさん含まれた話でした。障害を持った人たちが自分で決断し、望んだ生活を送っている様子をビデオで説明したのがとても解りやすく、ニューハンプシャー州においては行政と地域が連携して障害のある人たちの生活をサポートしている体制が理想的だと感じました。障害者の自立とは本人が望む形の生活を家族、サービス提供者、地域と行政が一つとなって支えていくプログラムだと理解でき、目指すべきバリアフリー社会の在り方を学ぶ機会になりました。

【ぱれっとの家 いこっと入居者 富澤太郎さん】：カーラさんが紹介してくれた障害者たちの生き生きとした姿が印象に残りました。中でも、事故による脊髄損傷のため、知的、身体障害を負ったシェインさんに対して、地域の人たちが様々な支援をしてきたという話に感動しました。本人の意思を最大限に尊重するという考えのもと、彼の自立した生活は周りの人たちによって支えられていることが実感できたからです。

現在、シェインさんは3人の健常者と共に生活をし、画家として活躍しています。彼の描いた絵を眺め、お互いに尊重しあう豊かな暮らしの実現を目指したいと改めて思いました。

～カーラさん 一週間の日本滞在を終えて～

皆さんの親切なおもてなしのお陰で、娘のキャシーと私は日本での滞在中を楽しむことができました。いただいた写真を友達に見せて、楽しい時間を何度も思い返しています。中学2年生のキャシーは、小学4年の生徒に対して、日本での体験を発表する予定です。

先日のプレゼンテーションはうまく行ったようで満足しています。平日にも関わらずたくさんの方が参加していただき、私の取り組みについてお話できて嬉しかったです。しかし、時間が足りなくて、皆さんの質問に全て答えることができなかったのが残念です。

ぜひ、障害者が自らの意志を表明すること、「声」をあげることを促してください。意志を表明する経験を重ねることによって、彼ら自身がどんな支援が必要なのかを伝えられるようになります。私たちの仕事は彼らの「声」を聞き、それに答えることです。今後も皆さんがディスカッションできるテーマや事例をご紹介できたらと考えています。

また、「おかし屋ぱれっと」や「ぱれっとの家いこっと」の訪問をはじめ、滞在期間中にたくさんの人たちとお話することができました。地域において人々が暮らし、働き、楽しむこと、そして同じ課題の解決に向けて取り組みを続けていくうえで、私たちのこのつながりはより一層強くなっていくことと思います。「ぱれっと」の仲間やその家族とお会いできてとても嬉しかったです。いつでもニューハンプシャーに遊びに来てください。

カーラ・ウェストン